

平成29年度文京区アカデミー推進協議会第1回分科会(生涯学習)概要記録

日 時	平成29年6月16日(金) 18:30～20:30
会 場	文京シビックセンター地下1階 アカデミー文京学習室
出 席 委 員	座長 田中 雅文 (日本女子大学教授) 委員 増田 純 塩見 美奈子 黒木 美芳 佐藤 美智子
欠 席 委 員	(なし)
事 務 局	竹越アカデミー推進課長 上野アカデミー文京所長 萩谷アカデミー推進係長 荒木・宇民・大河原(アカデミー推進係)
資 料	次第・文京区アカデミー推進協議会分科会別名簿・事業パンフレット
(議事)	委員自己紹介
1 開 会	(1)分科会の進め方について (2)委員より質問・意見等
2 アカデミー推進 計画の生涯学習分 野における平成28 年度の事業実施状 況の点検及び評価 について  ・委員意見 ◎事務局補足説明	(1)生涯学習分野は、分野別目標が大きく3つに分かれている。第1回協議会で配付された事業調査結果の表を確認しながら、点検していく。 (2)委員より質問・意見等 ・生涯学習の入門部分を終えた人は、その後どこへ発展していくのが良いのか？ 区はどのように考えているのか。各サークルの場へ行くのか他に何かあるのか。 ・(生涯学習の入門部分を終えて、学ぶだけの立場を終えた方は)区民プロデュース講座(事業No.108)の企画支援に回るというはある。 ・最近は個人情報保護の関係もあり、サークルをつくるのも難しい時代。 ・開催期間が長めの講座があると仲良くなれるが、忙しい人が増えて短い期間のものが多。 ・生涯学習相談(No.60)というものも平成28年6月から開始して、サークルの作り方や今後の学習に関する問い合わせ等相談を受けている。情報を提供することを重視している。アカデミー部分だけではなく、民間企業のものでも紹介する。セレクトするのは、本人であるという意識でやっている。 ◎生涯学習について、今までの区は動機付けの部分を担当していたと思うが、今は更に発展してきた。 ・区の周知力が足りないのでは。学習相談に来てくれる人は良い。 ◎最初の踏み出す勇気が初心者には大変なこと。情報は重要。 ・講座の形態も聞くだけではなくてワークショップ型のもがあるとやる気もある人が出てくる。 ・アカデミー以外の区の政策会議の部分ではワークショップ型のものあるように思う。 ・CATV(No.8)を利用して勉強している人の姿が、主催者側にはどのように見えているだろうか。気持ちやニーズを理解しているのだろうか。 ◎e-ラーニング(No.57)は、新しい題材のものを取り上げようとしているがネットに掲載できるものの著作権の問題などで実施できる講座数は少ない実績となっている。

・生涯学習フェア(No.99)以前より実施日数が減りスタッフの手伝いがなくなり、活躍していた人が活躍できなくなったので、もっと人材活用して欲しい。

◎No.99 1日体験フェアということで生涯学習の講座の受講生の募集時期に合わせて8月と2月の年2回開催していた。それに併せて会場を広くとり、サークルの発表、紹介も行ってた。地域アカデミーで活動している方たちの発表の場をつくっていた。今後、生涯学習司の会だけで運営するのではなく、軌道にのってくれば、進化させて、実行委員会形式にするなども考えられる。

・何でもシビックセンターの文京アカデミーに集中させすぎでは。

・地域アカデミーは施設が文京アカデミーに比べると悪い。もっと施設を良くして魅力的にして欲しい。

◎むしろ活動の仕方の住み分けという感じで地域アカデミーは定期的な活動での部屋を取りやすい。家から近いという利便性が最大の魅力。

◎シビックセンターの開催の方が手続きのついでで交通の便も良く集客力がある。

・地域特性に応じた講座の開催などが出来ると良い。

・地域特性に応じているのは「ふれあいサロン事業(No.136)」として地域活動センターで実施している。施設もきれいになってきていて人気もある。

・区民プロデュースの審査委員について、どういう資格を持った方になっているのか、面接の時も資料を読んだ上での質問ではなく不信感を持っている人がいる。企画そのものが未熟だったのか、実施方法設定などが悪いのか。審査に落ちた理由なども教えてもらえず、不満である。という声を聞いた。

・生涯学習相談で企画書の書き方やアドバイスをしている。広報もしている。

◎落選した方には、落選通知の中に今後のフォローで生涯学習相談がある旨、一文入れている。

・学会誌で査読者がコメントする感じを求められている。

◎直近では27企画11企画が通った。

・評価表のポイント公表をすとかコメントをするなどの可能性も探ることも必要かも。

◎受講者からお金を取って実施する講座という審査の観点もある。講師力が問われている。

◎区で会場を無料で提供するので実は営業の一環のような心配がないかもチェックしている。

・学びの成果を生かすインタープリターが実施している特別公開講座などは、区民にとって身近に感じられて好評である。ただ現場で活動している実働人数が少なく10人程度で運営をこなしている。

◎育成は、インタープリターと生涯学習司を交互に養成講座をしているので、すぐ人は増えないし、実際に活動できる人が増えることには繋がっていない。

◎公益財団法人 文京アカデミーの方では資格を取った人は優先的に選定委員会の委員になってもらうなど配慮しているが、定年後に地域で活動したいという人も多い。

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新しい人を使うのも結構だが、今いる人に何がやりたいのかを聞くのが大切で、やりたいことを活動に生かせるというのが良いと思う。</li> <li>・大きな事業をお祭りのようなものを実施目標にして活躍してもらうのは？</li> <li>・頑張りすぎる人が頑張るだけではダメかも。</li> <li>・武蔵野市では、毎年、市民活動をしている人を市活人(しかつんちゅ)として10人ぐらいパネルで紹介して(ロールモデルの意味)いる。</li> <li>・まちづくり。は計画を作成していた当時は余りイメージが出来ていなかった。今、考えると文京区はコミュニティーをつくとソフトな部分、人の繋がりできて活性化できるのがまちづくりだなと思う。小さなコミュニティーの積み重ね。そういうことがアカデミーの名の下に出来ると良い。交流も立体的に出来るのが大切。</li> <li>・講座はいっぱい増えたけど、平板(へいばん)に見える。</li> <li>◎まちづくりの部分の事業はアカデミーの関わりが減って各部局が増えてきているの見える。</li> <li>・この計画で位置づけたのは良かった。</li> <li>・各課がそれぞれの行政課題に応じた学び的な場がある。</li> <li>・アカデミーでは「文京学」というものも出てきている。この二つ、現実的な課題と学びの場の要素をドッキングしていくと区民活動として区民自身でやっていく自治の部分と区政でやっていく部分と協働でそれぞれが膨らんでいくとかなり良い。</li> <li>・個々の事業としては、みんな良くやっていると思う。</li> </ul> <p><b>【ワークショップ実施】</b></p> <p>黄色の付箋は○「プラス」「良くやっている」。</p> <p>緑色の付箋は×「マイナス」「課題」と思うものも含む感じで記入。</p> <p>桃色の付箋は？ 全体的な評価、共通して思うものを記入。</p> <p>ワークショップ発表内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・付箋に思った内容を記入し、発表しながら模造紙に貼っていった。</li> </ul>
3 まとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各自が記入した付箋を事務局が構造化しておく。</li> </ul>